

吉備真備公園

吉備真備（695-775）は、天文学の改良、陰陽道の占術、囲碁など、中国文化の多くの要素を日本にもたらしたとされる影響力のある政治家である。

地方の豪族に生まれ、吉備真備は幼い頃から学問の才能を発揮した。宮廷官吏として朝廷に入り、717年には遣唐使として唐に派遣された。これは、607年から838年にかけて日本が中国に派遣した19の使節団のひとつで、幅広い分野の研究を目的としていた。吉備真備はそこで17年間を過ごし、後に日本の宮廷で最高の地位に就くことになる。

吉備真備公園は、真備の一族ゆかりの地とされる場所に設けられており、彼の数々の功績を称えている。そびえ立つ吉備真備の像、神秘的で占星術的なシンボルを描いたモニュメントが円形に並ぶ広場、巨大な石の囲碁台、彼の科学的・天文学的研究を称えた日時計などがある。

公園の入り口には吉備大神宮がある。吉備真備を祀る小さな神社で、彼の学者としての名声に惹かれた地元の学生や父兄が、吉備真備の姿が描かれた絵馬に学業成就を祈願している。